

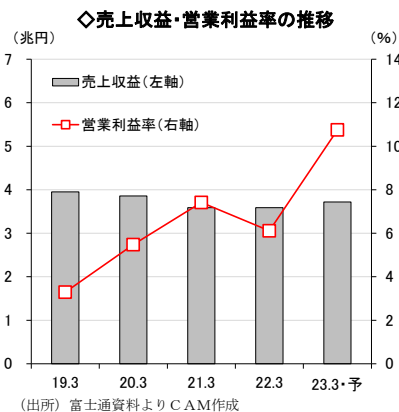
# 企業ニュース 富士通

(東証プライム : 6702) <https://www.fujitsu.com/jp/>

作成者: 村上大志

## ITサービスで国内トップ

日本を代表する総合エレクトロニクスメーカー。大規模かつ先進的なシステムを構築してきた高い技術力と豊富な実績を持ち、ITサービスの売上高は国内トップ、グローバルでも上位に位置する。主力事業はさまざまなITサービスを提供するテクノロジーソリューション。そのほか、パソコンやプリンタなどを開発・製造するユビキタスソリューション、家電や自動車、スマートフォンなどに搭載される半導体パッケージなどの電子部品を提供するデバイスソリューションを展開する。構造改革を進めており、2022年4月より6リージョン体制から日本、米州、ヨーロッパ、アジアパシフィックの4リージョン体制に移行した。22.3期の事業別売上収益構成比はテクノロジー83%、ユビキタス7%、デバイス10%。



## 構造改革の進展でテクノロジーソリューション事業の収益性は改善傾向

22.3期の連結業績は売上収益が3兆5,868億円、前期比0.1%減、営業利益が2,192億円、同18%減。世界的な半導体不足の影響、構造改革費用や成長投資の増加、携帯ショップ事業の譲渡益の反動減などで減益となった。主力のテクノロジーソリューションは好調に推移しており、ITサービス関連の受注は国内外ともに増加し、特に海外での受注が拡大した。米州でのITサービス事業はオペレーションの改善やサービスの採算性改善で黒字化を達成した。

23.3期の会社計画は売上収益が3兆7,200億円、前期比4%増、営業利益が4,000億円、同82%増。DX(デジタルトランスフォーメーション)ビジネス拡大による増収効果に加え、採算性の改善や費用の効率化で営業利益は大幅増益、過去最高益の達成を目指す。会社側は売上延伸やコストアップなど部材供給遅延のマイナス影響が第3四半期まで続くとしているが、価格転嫁の推進などでその影響は緩やかに改善しよう。ユビキタスは前年並みの売上を見込むが円安に伴う部材価格上昇で減益、デバイスは半導体パッケージの需要拡大で増収だが償却費増などで減益の計画。

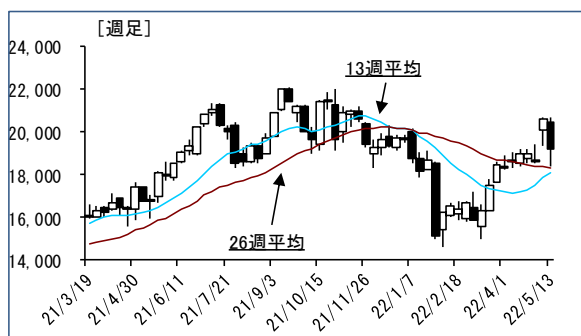
### [株価動向・投資判断]

今期は経営目標であるテクノロジーソリューション事業の営業利益率10%達成を見込む。1,500億円の自社株買いを発表し、株主還元を強化した点も好印象。

<6702 富士通 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	3,589,702 (▲7)	266,324 (26)	291,855 (28)	202,700 (27)	1,013.8	200.00
22.3	3,586,839 (▲0)	219,201 (▲18)	239,986 (▲18)	182,691 (▲10)	924.2	220.00
23.3 予	3,720,000 (4)	400,000 (82)	- (-)	280,000 (53)	1,424.8	240.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2022/5/13)	19,170 円
年初来高値(高値日)	20,670 円(22/5/2)
同 安値(安値日)	14,615 円(22/2/1)
予想PER(23.3予)	13.5 倍
1株株主資本(PBR算出用)	8,094.7 円
PBR	2.37 倍
予想配当利回り	1.25 %
(1株当たり配当金年240.00円)	
ROE(22.3)	12.0 %
発行済み株式数	20,700 万株